

通学路横断歩道に起伏

福山・新涯町で 事故防止へ効果検証

福山市や県警などは、車の運転速度を下げるため起伏を設けた横断歩道を同市新涯町の新涯小近くの市道に実験的に導入した。交通事故の防止につなげる狙いで25日まで効果を検証する。

幅4・5メートルの市道にゴム製のマットを敷いて、横断歩道部分を10センチかさ上げしている。期間中は、車両速度の抑制具合や歩行者優先



断歩道

車の速度を抑えるため起伏を設けた福山市新涯町の横断歩道



時の車両の停車率などをビデオカメラで記録して効果を分析するという。

現場の市道は交通量が多く、朝夕は小学校の通学路になる。県警交通規制課によると、同様の横断歩道は県内では広島市西区の平和記念公園周辺の2カ所。同課は「有効性が確認されれば、県内の市町に導入を提案していく」とする。

市は実験終了後に横断歩道を元通りにし、常設の是非を地元住民たちと協議する予定でいる。市道路整備課の小原徹・道路企画担当課長は「安全に市道を利用してもらう環境を目指し、地域の理解を得ながら可能性を探りたい」と話す。

（川村正治）

安全守る「ゾーン30」拡大



今年度指定されたゾーン30（広島市西区で）

県内通学路など82か所に

通学路などの生活道路で、最高速度を時速30キロに制限する「ゾーン30」の導入が県内で広がっている。11月末現在、学校の周辺などを中心に82か所に、車の走行速度を下げることで重大事故を減らす狙いがある。全国各地では登下校中の児童が死傷する事故が起きる中、県警は、新たな対策「ゾーン30プラス」の導入も検討しており、「悲惨な事故を防ぎたい」としている。

（豆塚田香、浅田真理）

ゾーン30は、定められた区域全体に、時速30キロの速度制限が設けられている。30キロは自動車と衝突した歩行者が死亡する確率が高まるラインで、30キロ超になると、確率は急激に上昇するという。

県警によると、県内でゾーン30が導入されたのは2013年度。以来、広島市のほか、呉市や福山市など各地の通学路や生活道路で指定されるようになった。今年度は、広島市西区の広島三育学院小学校付近と、同市西区の南観音小と観音中付近などが指定された。

南観音小の児童らの見守り活動をしている横川徹さん（80）は「学校近くを高速で走る車が多くて危険だっ

事故減少に効果 路面に起伏「ハンプ」も検討

た。これで子供たちが安全に通学できれば」と期待を寄せた。

県警が、19年度までに指定された74か所を調べたところ、交通事故の発生件数が指定前と比べて約6割減少したという。

県内の事故の発生件数は年々減少している。11年に約1万5700件あった人身事故は、昨年約4800件と、10年で3割程度に。死者数は昨年71人で、この10年で約4割減った。一方死傷者数の約2割は幅4・5メートル未満の生活道路で事故に遭っており、県警は「対策が求められる」としている。

また、登下校時の子供が巻き込まれる事故も県内外で相次いでいる。千歳県八街市では6月、下校中の児童が飲酒運転のトラックにはねられて死傷する事故が

起きた。7月には呉市で、登校中の小学生4人が軽乗用車にはねられ負傷した。

このため、県警はゾーン30で、路面に起伏を設けて、速度を抑制する「ハンプ」などを組み合わせた「ゾーン30プラス」などの導入を目指している。

今年4日、福山市新涯町のゾーン30の交差点の横断歩道に、「ハンプ」（高さ約10センチ）をつけた「スムーズ横断歩道」が試験的に設置された。国土交通省、県警、同市が連携し、車が一時停止する割合や通行する速度の変化を検証、分析する。



小学校沿いの交差点に設置されたスムーズ横断歩道（福山市で）